

報道資料

メールアドレスが流出する情報セキュリティ事故について

視覚障害者福祉センターのボランティア団体の会員に電子メールを送信した際に、宛先を「ＢＣＣ」で送付すべきところ、「ＴＯ」で一斉送信したことにより、個人のメールアドレスが全送信先に表示される情報セキュリティ事故が発生しました。

相手方に対しては、直ちに個人情報の流出のお詫びをするとともに、該当メールの削除を依頼しました。

本件事故を深く反省し、再発防止策を早急に講じて参ります。

1 事故の概要

- (1) 発生日時：令和7年12月10日（水）午前9時
- (2) 事故内容：所有者氏名が特定できる形でのメールアドレス（126件）の
個人情報流出
- (3) 事故原因：ボランティア連絡用のパソコンより一斉メール送信の際に、宛先を「ＢＣＣ」ではなく「ＴＯ」を設定
- (4) 発覚経緯：受信者からの回答メールの「引用元メッセージ」に、全員のアドレスが所有者氏名とともに表示されているのを担当者が確認したことによる
- (5) 対応状況：個人情報が流出した全員に対して、メールにて謝罪及び該当メールの削除を依頼

2 再発防止策

所内で、改めて個人情報の取り扱いに関する研修を実施するとともに、今後は誤送信防止機能を備えた県の電子メールの使用を徹底する。

※ 県のメールシステムの場合は、複数の外部アドレスを設定して送信すると自動的にＢＣＣに変換される仕組みになっています。今回の事案は、県のメールシステムではなくボランティア連絡用パソコンから送信したことにより発生したものです。